

養育園等に対する立入検査結果を踏まえた現時点の評価

平成 26 年 1 月 17 日
健康福祉部障害福祉課

- 1 昨年 12 月の養育園に対する 3 回（計 5 回）の立入検査（延べ約 80 人から聴取）の結果、現時点では、
 - ・ 第 2 寮（行動障害等男子児童）において、5 人（A～E）の日常的な虐待と、4 人（F～I）の虐待の疑義が認められた。（なお、19 年度に別の 1 人（K）の虐待が確認されている。）
 - ・ 第 3 寮（ADHD・触法等男子児童）、第 4 寮（ADHD・触法等女子児童）及び第 5 寮（中軽度男子児童）においては、虐待又は虐待の疑義は認められなかった。
 - ・ 第 1 寮においては、1 人（E）の虐待が認められたが、この者は、第 2 寮に配置替えとなった後、暴行がエスカレートしており、また、1 人（G）の虐待の疑義が認められたが、これはかつて第 2 寮において虐待の疑義がある者である。
- 2 また、本年 1 月 8 日から、更生園に対する立入検査を実施しているが（現在 57 人から聴取）、現時点では、
 - ・ 第 1（高齢、厚介護、精神疾患、身体併発等）においては、新たな虐待又は疑義は認められていないが（なお、19 年度に別の 1 人（L）の虐待が確認されている。）、
 - ・ 第 2（強度行動障害等）において、既に 3 人（J、M、N）の虐待が確認されており、うち J は以前から複数回にわたって虐待を行っていた疑義が認められ、M は 19 年度に別の虐待が確認されており、N は 17 年度に養育園第 4 寮で別の虐待が確認されている者である。
- 3 したがって、今後、特に養育園は第 2 寮、更生園は（現時点では）第 2（※いずれも行動障害等の児者が利用）に着目して、詳細を調査・検証していく必要がある。
- 4 その際の検証の観点として、次のことが考えられる。
 - i) 行動障害等の支援に係る職員の資質、研修等人材育成のあり方
 - ii) 各施設の管理体制、内部の協力・牽制体制、報告・確認体制
 - iii) 各施設の透明性、開放性
 - iv) 各施設と事業団本部との連絡・連携体制

[参考：昨年末に養育園に対して行った当座の措置]

- 1 昨年１２月の養育園に対する立入検査においては、センター長（現常務理事）及び養育園施設長は、平成２３年度に、養育園第２寮における虐待の目撃情報について相談を受けており、特に施設長においては、一部の虐待について把握していたにも関わらず、具体的な対策を採らなかったことなども確認された。
- 2 これらを踏まえ、現に養育園で虐待が確認されているという重大性及び緊急の必要性に鑑み、取り急ぎの当座の措置として、２５年１２月２７日付で、以下の処分及び勧告を行った。（なお、今後の調査等により、追加の処分や勧告があり得る。）
 - ① 障害者総合支援法等に基づく行政処分（指定の一部の効力停止処分）
 - ・ 当分の間の新規利用者の受入れ停止
 - ② 障害者総合支援法等に基づく改善勧告
 - ・ 障害者虐待防止法違反を踏まえ、障害者虐待防止法及び障害者総合支援法等の関係法令の遵守徹底
 - ・ 施設長の交替も含めた万全な虐待防止体制の整備
 - ・ 事業団における第２寮のチェック体制の強化及び第２寮職員への適正な人事配置（県への事前協議制へ）